



Aflac Incorporated は 2015 年度第 1 四半期の業績を発表

2015 年度第 2 四半期現金配当を宣言

2015 年度の1株当たり事業利益成長目標を確認

ジョージア州、コロンバス - 2015 年 4 月 28 日

Aflac Incorporated (以下、「当社」)は本日、2015 年度第 1 四半期の業績を以下のとおり発表しました。

当四半期の収益合計は、円安ドル高を反映して、前年同期の 56 億ドルから 7.3%減少し、52 億ドルとなりました。当期純利益は、前年同期の 7 億 3,200 万ドル(希薄化後 1 株当たり 1.60ドル)から 6 億 6,300 万ドル(同 1.51ドル)となりました。

前年同期の当期純利益には 3,600 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.08ドル)の税引後資産運用実現損(実現益とのネット)が含まれていたのに対し、当四半期の当期純利益には、300 万ドル(希薄化後 1 株当たりほぼ 0ドル)の税引後資産運用実現損(実現益とのネット)が含まれていました。当四半期の有価証券取引による税引後資産運用実現益は、実現損とのネットで4,000 万ドル(希薄化後1株当たり0.10ドル)でした。当四半期の日本社の一部のドル建て投資に関連するヘッジ費用は、税引後ベースで 900 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.02ドル)でした。当四半期のその他のデリバティブ及びヘッジ活動による税引後資産運用実現損(実現益とのネット)は 3,400 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.08ドル)でした。これらに加えて、当期純利益には、その他及び非経常的損益からの 1,200 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.03ドル)の損が含まれています。

当社は、当社事業に収益をもたらす諸要素について理解するために、事業利益(米国会計基準 GAAP 外の指標)の分析が極めて重要であると考えています。事業利益とは、有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じた資産運用実現損益ならびにその他及び非経常的損益を除外し、社債等に関連した支払金利を含む、当社事業から得られる利益です。当社のデリバティブ活動は、主として当社の運用ポートフォリオに係る為替リスク及び金利リスクをヘッジすることを目的としたものであるとともに、一部の社債に係る為替リスク及び将来の円建ての予測キャッシュフローに係る為替リスクを管理することを目的としています。有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じる資産運用実現損益ならびにその他及び非経常的損益は、全般的な経済情勢など外部環境が大きく影響すること、あるいは当社の保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連するものであることから、当社保険事業の基盤や傾向を必ずしも正確に反映していないため、当社では、保険事業の財務業績を評価するにあたっては事業利益を用いています。

さらに、アフラックの事業全体に占める日本社の割合が非常に大きいため、日本の機能通貨である円から米ドルへの換算が事業利益に与える影響を理解することも同様に重要であると考えています。当社は、日本社の損益計算書の作成にあたっては、当該期間の平均円/ドル為替レートを、また貸借対照表の作成にあたっては、期末の円/ドル為替レートを、それぞれ使用していますが、利益送金及び日本社のドル建て投資プログラム等を除いて、実際に円貨をドル貨に換金することはありません。したがって、当社は、外貨の換算は、当社や株主に対して実際に経済的な意味を持つものというより、むしろ財務諸表作成の目的に利用するものと考えています。また、為替変動によっては当社事業の成長率が歪められてしまうため、当社は、財務諸表を使って当社事業を評価する場合、為替変動の影響を除外した財務業績も評価すべきであると考えています。本リリースの最後に、為替変動の影響を含めた場合とそれを除外した場合の主な業績数値の比較表を、その影響を示すために掲載していますので、ご参照ください。

当四半期の平均円/ドル為替レートは、前年同期の102.70円から13.8%円安ドル高

の119.16円となりました。当四半期の事業利益は、前年同期の7億7,400万ドルから、6億7,800万ドルとなりました。当四半期の希薄化後1株当たり事業利益は、前年同期に比べて8.9%減少し、1.54ドルとなりました。為替レートが円安ドル高に推移したことで、当四半期の希薄化後1株当たり事業利益は、0.13ドル減少しました。円安ドル高の影響を除いた希薄化後1株当たり事業利益は、1.2%減少しました。

運用資産及び現金・預金合計は、2014年12月31日現在の1,073億ドルから2015年3月31日現在では1,087億ドルとなりました。

当四半期、当社は6億ドル相当(980万株)の自己株式を取得しました。2015年3月31日現在、当社の自己株式取得承認枠は、1,970万株となっています。

株主持分は、2014年12月31日現在が183億ドル(1株当たり41.47ドル)であったのに対し、2015年3月31日現在では186億ドル(1株当たり42.97ドル)でした。株主持分に含まれる保有有価証券及びデリバティブに係る未実現損益(ネット)は、2014年12月31日現在が47億ドルの益であったのに対して、2015年3月31日現在では50億ドルの益でした。当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年率換算で14.3%でした。事業ベース(当期純利益に含まれる資産運用実現損益(ネット)及び株主持分に含まれる運用資産及びデリバティブに係る未実現損益を除く)で見ると、当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年率換算で19.8%でした。また、円安ドル高の影響を除くと、21.5%でした。

日本社

当四半期、円ベースで見ると、保険料収入は0.2%増加しました。投資収益(ネット)は7.2%増加しました。当四半期の日本社の投資収益の約48%がドル建てであったことから、日本社の円ベースの投資収益の伸びは、円安ドル高の影響によって押し上げられました。前年同期は投資収益の45%がドル建てでした。当四半期の日本社の収益合計は、前年同期に比べて1.3%増加しました。当四半期の税引前事業利益率は、前年同期の22.0%から22.1%へと上昇しました。円ベースの税引前事業利益は、

報告ベースで 1.8%増加しましたが、為替変動の影響を除けば、2.9%の減少でした。

当四半期の日本社のドルベースでの成長率は、著しい円安ドル高の影響により、押し下げられました。当四半期の保険料収入は 13.5%減少し、31 億ドルとなりました。投資収益(ネット)は 7.5%減少し、6 億 1,300 万ドルとなりました。収益合計は 12.6%減少し、37 億ドルに、税引前事業利益は 12.2%減少し、8 億 1,900 万ドルとなりました。

当四半期の新契約年換算保険料は 2.2%減の 270 億円(2 億 2,600 万ドル)となりました。当四半期のがん保険と医療保険を含む第三分野商品の販売は、21.3%増加しました。当四半期の WAYS と学資保険を含む第一分野商品の販売は、主として第三分野商品の販売への継続的な集中を反映し、予想通り減少し、29.8%減となりました。

米国社

当四半期の米国社の保険料収入は 3.5%増加し、13 億ドルに、投資収益(ネット)は 3.3%増加して 1 億 6,600 万ドルとなりました。収益合計は 3.6%増の 15 億ドルとなりました。税引前事業利益率は、前年同期の 20.8%から 18.9%となりました。当四半期の税引前事業利益は 6.1%減の 2 億 8,500 万ドルとなりました。この減益は、主として販売体制の改編に係る費用を反映したものです。

当四半期の米国社の新契約年換算保険料は 0.5%減少し、3 億 1,600 万ドルとなりました。また、継続率は前年同期の 76.3%から 76.7%となりました。

現金配当

取締役会は、2015 年度第 2 四半期支払いの現金配当を宣言し、これを1株当たり 0.39ドルとしました。この現金配当は、2015 年 5 月 20 日の営業終了時点の登録株主に対し、2015 年 6 月 1 日に支払われます。

今後の見通し

当四半期の業績について、当社会長兼最高経営責任者であるダニエル・P・エイモスは次のように述べています。

「当社の最大の利益貢献部門である日本社は、当四半期、円ベースでは強力な財務業績と販売実績を挙げました。日本社の第三分野商品の販売は、21.3%増加し、2015年の当初9ヶ月間の平均の販売成長率予想である15%に向けて、大変良いスタートとなりました。第4四半期における第三分野商品の販売成長率については、困難な比較となるため、前年同期比大幅に減少するものとの見方に変わりありませんが、引き続き、第4四半期の実績を改善するための方策をとって行きます。」

「財務業績の観点では、米国社も第1四半期に良好な実績を挙げました。昨年第4四半期の決算説明電話会議で申し上げましたが、本年第1四半期の販売は、困難なものになると予想していました。しかしながら、すでにご説明をしたとおり、過去数ヶ月間、当社は米国市場における販売体制の大幅な改編を実行しており、この改編が、当社の組織に対して有益な影響を与えるものと引き続き確信しています。このような状況の下、米国社の本年の販売を3%から7%増加させるという目標に向け、引き続き注力して行きます。当社は常に、ブランド力と魅力的な商品ポートフォリオを活用して、変化を続ける医療環境の中で、全ての規模の企業の雇用者にアクセスできる販売網の拡充に向けて注力します。」

「当社は、ご契約者のために強力な自己資本比率を維持することに、引き続きコミットしています。本年3月31日に新たな再保険契約を締結したことにより、当社は2015年度の資本ポジションを改善し、日本社の責任準備金は約1,300億円減少しました。さらに本年4月1日付で、この再保険取引の90%がアフラック・インコーポレーテッドの子会社に再出再されました。このように、当社は強力な自己資本比率を維持できるものと期待しています。この資本力は、2015年暦年の米国への利益送金約2,000億円に向け、優れた財務ポジションに当社を置き、2015年に約13億ドルの自社株買いを実行する計画を強化するものであると考えています。」

「改めて申し上げますが、2015 年度の為替変動の影響を除く希薄化後 1 株当たり事業利益成長目標は、2%増から 7%増です。仮に第 2 四半期の期中平均円／ドル為替レートが 1ドル 120 円から 125 円で推移した場合、第 2 四半期の希薄化後 1 株当たり利益は約 1.46ドルから 1.57ドルの間になるものと当社は見込んでいます。同様の為替レートを前提すると、通年の希薄化後 1 株当たり事業利益は約 5.74ドルから 6.15ドルの間になるものと見込んでいます。本年 4 月、当社は、連結ベースの資本ポジションを改善するため、社債の繰上償還を実行しました。その結果、2015 年第 2 四半期には希薄化後 1 株当たり約 0.34ドルの非事業ベースの繰上償還手数料の負担が発生しますが、ネットの金利負担の軽減により、2015 年のその後の期間において希薄化後 1 株当たり事業利益は約 0.07ドル増加します。困難な金融市場と著しく低い水準にある金利環境は、当社のキャッシュフローを魅力的な利回りで運用することを困難にしています。したがって、当社は、日本での第一分野商品の販売については非常に慎重な姿勢をとっており、このことによって、投資に向けることのできるキャッシュフローは減少します。常にそうしてきたことですが、当社は引き続き 1 株当たり利益目標達成のため、懸命に努力するとともに、ご契約者の皆様へのお約束をお守りして行く所存です。」

アフラックについて

当社は、ご契約者が病気または怪我をした時に給付金を現金で迅速にお支払いします。60 年近くにわたって、当社の商品は、ご契約者が経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。当社は米国では職域における任意加入保険販売 No.1 の会社です。先駆的な「ワン・デイ・ペイ」の取り組みにより、米国社は、給付請求の受付、審査手続、承認及び支払いを 1 営業日で行うことができます。日本では、アフラックはがん保険・医療保険の最大手で、4 世帯に 1 世帯がアフラックの保険に加入しています。当社の個人保険及び団体保険は、世界で 5,000 万人以上の方々に保障を提供し、お役立ていただいています。『Ethisphere』誌は 9 年連続で当社を「世界で最も倫理観の高い企業」の 1 社に選出しています。また、2015 年、『フォーチュン』誌は当社を 17 年連続で「全米で最も働きがいのある企業 100 社」に選出するとともに、

14回目となる「世界で最も賞賛すべき企業」の1社にも選出、当社を生命保険及び医療保険分野のイノベーション部門で第1位にランクしました。Aflac Incorporatedはフォーチュン 500 社に入っており、ティッカー・シンボル AFL としてニューヨーク証券取引所に上場しています。当社及び「ワン・デイ・ペイ」に関するさらに詳しい情報は、aflac.com 又は espanol.aflac.com をご覧ください。

当四半期の業績数値の補足資料(FAB Supplement)は、aflac.com「Investors」ページから入手可能です。

当社は、当四半期業績報告の電話会議の様様を2015年4月29日(水曜日)午前9時00分(米国東部夏時間)に aflac.com 「Investors」ページ上で公開します。

Aflac Incorporated およびその子会社連結損益計算書(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数および1株当たりの数字を除く—無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	2015年	2014年	増減率
収益合計	5,226	5,640	-7.3%
保険金給付金	2,952	3,220	-8.3%
新契約費及び事業費合計	1,261	1,316	-4.2%
税引前当期純利益	1,013	1,104	-8.3%
法人税等	350	372	
当期純利益	663	732	-9.4%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.52	1.61	-5.6%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.51	1.60	-5.6%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	437,306	454,731	-3.8%
希薄化後	439,927	457,699	-3.9%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.39	0.37	5.4%

Aflac Incorporated およびその子会社連結貸借対照表(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数を除く—無監査)

3月31日現在:

	2015年	2014年	増減率
資産:			
運用資産および現金・預金	108,711	110,493	-1.6%
繰延新契約費	8,319	8,965	-7.2%
その他の資産	4,371	3,834	14.0%
資産合計	121,401	123,292	-1.5%
負債および株主持分:			
保険契約準備金	85,564	92,890	-7.9%
社債等	6,282	4,913	27.9%
その他の負債	10,918	9,813	11.3%
株主持分	18,637	15,676	18.9%
負債および株主持分合計	121,401	123,292	-1.5%
期末発行済普通株式数(単位:千株)	433,771	454,028	-4.5%

事業利益と当期純利益の調整

(単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く—無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	2015年	2014年	増減率
事業利益	678	774	-12.5%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	40	25	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-9	-6	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	-34	-55	
その他及び非経常的(損)益	-12	-6	
当期純利益	663	732	-9.4%
希薄化後1株当たり事業利益(単位:ドル)	1.54	1.69	-8.9%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	0.10	0.05	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-0.02	-0.01	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	-0.08	-0.12	
その他及び非経常的(損)益	-0.03	-0.01	
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.51	1.60	-5.6%

為替変動の業績への影響¹
(主要項目の前年同期比増減率—無監査)

2015年3月31日に終了した3ヶ月間:

	為替変動の 影響を含む	為替変動の 影響を除く²
保険料収入	-8.7%	1.5%
投資収益(ネット)	-5.4%	0.8%
保険金給付金および事業費合計	-7.1%	3.0%
事業利益	-12.5%	-5.0%
希薄化後1株当たり事業利益	-8.9%	-1.2%

¹数値は本書において定義した事業利益ベースで表示している。

²為替変動の影響を除外した数値は、前年同期と同様の円/ドル為替レートを用いて算出した。

2015年度1株当たり事業利益予想

<u>円/ドル平均為替レート</u>	<u>1株当たり年間事業利益</u>	<u>対2014年度増加率</u>	<u>為替の影響</u>
100	\$6.47 - \$6.77	5.0% - 9.9%	\$ 0.18
105.46*	\$6.29 - \$6.59	2.1% - 7.0%	\$ -
115	\$6.01 - \$6.31	-2.4% - 2.4%	\$ -0.28
125	\$5.77 - \$6.07	-6.3% - -1.5%	\$ -0.52
135	\$5.56 - \$5.86	-9.7% - -4.9%	\$ -0.73

*実際の2014年度の年間加重平均為替レート